

村民委員会選挙とガバナンスのジレンマ

—— 中国北方長山諸島の実態に関する文化人類学的考察 ——

緒 方 宏 海

- I. はじめに
- II. 村民委員会と選挙
- III. 利益をめぐる駆け引き
- IV. 嫉妬の抑制, もめ事と政治的境界
- V. むすび

I. はじめに

中国の農村において、村民が村幹部を民主主義的な選挙によって選ぶ村民自治¹⁾ 制度は、これまで政治学や社会学など様々な分野の関心をひきつけてきた²⁾ 近年の研究においては、村の自治を主導するアクターでありながら、これまで比較的注目されてこなかった存在、すなわち村幹部とその村組織への関心が高まりつつある [Li 2004; 孫秀林 2008]。しかしこれらの研究では、村幹部が個人の力量或いは社会ネットワークを利用して村と村民のために働くかあるいは村よりも国の政策の実現のために国の代理人としてしか働かないの

-
- 1) 村民自治とは、村に関する全ての行政を、村民自身で行う自治活動である。すなわち村民自身による、村の「民主選挙」(民主的選挙の実施)、「民主決策」(民主的政策決定)、「民主管理」(民主的管理)、「民主監督」(民主的管理)の実施である [cf. 村民委員会組織法第2条 1998: 3]。
 - 2) 中国の村民自治に関する研究は、中国の社会学者や政治学者、アメリカの社会学者等による多くの研究蓄積がある。日本においては村民自治制度について具体的な村落の事例を挙げながら論じられた研究として中国人研究者の張文明 [2006] の著書がある。文化人類学の視点から村民委員会選挙の実態や農業税廃止以降、現場の幹部と郷鎮政府の利益調整についてまで言及した研究は、管見の限りきわめて少ない。

か³⁾ もしくは「村組織が関心をもつのは利益のことであり、自己の利益になることならば、国家と社会（村民）からの監督は無視できる」[張 2006：322] という利益の最大化しか頭にない村幹部、いずれかに焦点化される傾向があった。そこでは、村幹部と村組織が運営・管理する自治の実態（失敗または成功）は、幹部の政治的手腕と村の現状（経済や民主主義の浸透の程度）、村民との関係のもとで結論が考察されるにとどまっている。村幹部が村民と上級政府である郷鎮政府との狭間で現在直面している問題やその利益調整について具体的な事例を挙げながら論じる研究は極めて少ない。

また農村において、農業税が廃止された 2006 年以降、上級政府である郷鎮政府と村の村民委員会の関係にも大きな変化が見られた。研究者の指摘⁴⁾によれば、農業を主要産業とする多くの郷鎮政府は、村に対して行使していた財や税、人事などに関する権力はその上の県や市に移行したために、郷鎮政府の権力はすでに「空架子」（内面的には空）の状態である。こうした状況に置かれた郷鎮政府は、財源不足⁵⁾を補うため、各部門（経済、党政治処理、社会事務など）を「便民服务中心」（民のためのサービス窓口）に統括し、規模を縮小して、内部の人員削減を行い、「服务型政府」（サービス型政府）へと変化を遂げている。例えば、本稿が扱う遼寧省の農村や島嶼部の漁村では、シングルマザーの生活保護など各種の生活支援申請は、従来郷鎮政府が村落内で実態調査をして申請人数を決定していたのが、今日では村民委員会が直接に調査を行い、申請者を決定している。村民委員会の業務内容と権限の及ぶ範囲が飛躍的に拡大さ

3) 孫秀林は、2003 年安徽省、福建省、黒龍江省、湖南省、四川省、浙江省合計六つの省の 95 の村において定量調査を行った。調査結果によれば、国家の利益の代理人と「社区」（村）の利益の代理人でもある村幹部等は、より民主的な村落運営を実現している村の幹部ほど、村民の利益のために働くことに大きな比重を置くことを主張している [孫秀林 2008：84-87]

4) 饶静・叶敬忠 2007 年「我国郷鎮政権角色和行為的社會学研究綜述」『社会』第 27 卷、187 頁を参照。

5) 中国政府は、農民の負担を軽減するために農業税を廃止したが、郷鎮政府の財源不足を招き、行政サービスの実施に支障をきたしている。吉岡孝昭 2010 年「中国における農業税改革と郷鎮級政府財政：農業税敗廃止を中心に」『国際公共政策研究』15(1)、85 頁を参照。

れたのだ。かような権限の変化は、郷鎮政府が行う政策決定に関する村民委員会幹部の協力の在り方にも変化をもたらした。村幹部は自分たちの利益にかなう政策決定は支持し、そうでなければ怠業や抵抗することが指摘されている⁶⁾。

しかし、こうした一般的観測を目下の郷鎮政府と村民委員会の権限の逆転としてとらえることは実態との大きな乖離があると言わざるを得ない。逆説的であるが、農業税が廃止された以降、郷鎮政府の権限が縮小されたにもかかわらず、村民委員会委員の給与や業績評価の局面においては、いまだに村幹部は郷鎮政府との関係を重要視しなければならない状況にある。

本稿の目的は、中国北方に位置する遼寧省の島嶼部に居住する漁村社会を対象に、人々の社会関係から村民委員会選挙の実態と村幹部が抱えるガバナンスのジレンマの実態を明らかにすることである。本稿は、社会関係の分析を重視する文化人類学的手法を通して、現場の村組織を主導する村幹部が今日直面しているのは、自己の利益の最大化よりも、村民と地方政府の両者の狭間でどちらかを選ばないといけないという利益対立の構図のなかでガバナンスのジレンマを抱えている事例を示す。本稿に入る前に、中国における村民自治制度の歩みについてここで簡単に触れておきたい。

1987年11月、中国農村において「中華人民共和国村民委員会組織法(試行)」が公布された。この時、多くの研究者と村の現場にいる人々は、村民自治が農村で順調に実施できるかどうかを疑った⁷⁾。というのは中国の数千年の歴史を見ても、末端の農民が投票して政治参加するという経験がなかったことと、都市部と比較して教育程度が低く思想観念が保守的で遅れている状態にある農村に対して、農民が果たして自己たちの村を独自で民主的に管理・運営できるのだろうかという疑念があった。しかし2013年末までに、現状として農村で村民自治制度が確立され、全国に58.9万もの村民委員会が設立され、232.3万人

6) 湯鵬主 2012年「利益集団、制度変遷与郷鎮政府改革」『社会科学家』第7期、総第183期、69頁を参照。

7) 2006年5月南京大学社会学系の教員と学生等によって行われた20の村に対するアンケート調査の結果によれば、村民委員会選挙は定着しつつあるが、一部の村では規則に従って選挙が行われておらず、選挙そのものに疑いの目を向ける村民がいたことを指摘している [陳友華・杜俊飛 2007: 36]。

が村民委員会の委員として村で働いている⁸⁾

村民自治の制度上の理念に従えば、最も望ましいのは、村民全体の利害を代表する民主主義的な村落運営である。しかし実態として多くの研究調査が指摘⁹⁾しているように、大多数の中国の村では制度上の理念が実態では必ずしも完全に機能しておらず、村を束ねる村民委員会の現場では様々な問題を抱えている。最も深刻な問題は、本来村民委員会のメンバーは、村民の民主的な選挙によって選ばれるべきものであるにもかかわらず、実態として、民主的な手続きを踏まない形式的な選挙や不正な手段による選挙が横行していることである。選挙の不正について、中国政府は任期満了以前に委員を更迭することや、適格な人材を郷鎮政府による密室での任命、随意変更などの対策がとられている。中国の法学者の張銘と王迅が明快に指摘したように、「上から下への政治と行政の強制的なコントロールによって生まれたエリートは、民主主義、選挙、自治という装いを纏い、合法化という飾りを付け加えているだけであり、真の中国の国情に相応しい農村コミュニティ自治の発展のために力を注いでいない」[張銘・王迅 2008 : 207]。

また村民が村幹部に対する支持についても、チン (Chen, Jie) は、中国の研究機関と共同で 2000 年に江蘇省南部 84 の村で実施した大規模なアンケート調査では興味深い結果を示している。チン等によれば、選挙で選ばれた村の幹部に対しては、村民の支持率は 47% と高くはないことに加えて、大多数の村民は、村のリーダーと村民自治の現在の状況について、支持するか、支持しないがわからずに曖昧なまま仕方なく投票を行っているのではないかという指摘をしている [Chen 2005 : 884]。先行研究の指摘からわかるように、郷鎮政府、村幹部、村民の三者を囲む政治空間の実態は、村民自治制度上の理念にある民主主義的な村落運営とはややかけ離れたものであるといえよう。本稿では、村幹部による村民と郷鎮政府との利益調整の取り組みについて現場の実態を考察する

8) 「2013 年社会服务发展统计公报」民政部门户网站 (民政部ウェブサイト) 2014-06-25。
<http://yanchang.mca.gov.cn/article/gzdt/201406/20140600658537.shtml> による。

9) 張厚安・徐勇・項繼權等著 2000 年『中国農村治理—22 个村の調査と比較』武漢：華中師範大学出版社，8 頁を参照。

ことで、その関係性のなかで、この事例から見出せる一筋縄ではいかない村幹部の村落運営の実態を明らかにする。

以下Ⅱ章では、本稿の調査対象地域、中国北方に位置する遼寧省黄海に浮かぶ長山諸島の、一島で村を形成しているA村の現状と村民委員会選挙のプロセスについて述べる。村民委員会選挙において村民が如何にして委員を選出し、また村民委員会主任はどのように支持を得て当選したかを示す。Ⅲ章では、郷鎮の財政難、村幹部の給与の問題、村民の村幹部に対する評価、これらから垣間見える人々の社会関係の重要性について説明したうえで、実態として、村幹部は、村民と郷鎮政府との狭間でどのような利害関係が築かれているかを示す。Ⅳ章では、島のもめごとの事例を検討することで、島民が漁業または夏場の観光業で、利益やお互いに対する嫉妬の場面で如何に自己を配置するのかといった点から、島の人々には社会関係に波風を立てない平和な島内の暮らしを望む行動規範があることを示す。逆に島外部から参入してきた企業に対して、島民等は自己たちが漁業や観光業で得られるはずの利益を横取りされたときには、村幹部がとくに激しい批判・非難にさらされる様子を描く。Ⅴ章では、中国の陸地農村と比較して、調査対象地域の固有性をどのように理解することができるかを指摘するとともに、村幹部は自発的に利益の最大化を追求しないが故に、バラバラな利益間の合意をもたらす結節点の役割を果たしていることを明らかにする。

Ⅱ. 村民委員会と選挙

長山諸島A島は、大長山島の西南部から6海里に位置し黄海に浮かぶ小島で、一島で一村を形成している。2013年12月までのA島の人口は、251世帯840人、漁業が島民の主要な経済である。四つの村民小組をもつ。

図1は、A島の村民委員会のメンバーの職務の配分である。A村の村民委員会は、村民委員会主任¹⁰⁾兼党支部書記、会計、民兵隊長、婦女主任の四人に

10) 図1からもわかるように、村落社会における村民委員会主任(村長)と党支部書記、会計の主要ポストは、村落社会の政策決定に、最も決定権をもつことがわかる。

図1. 村民委員会の組織構成と職責の配分

村民委員会の組織構成	〈工作职责分工〉(村民委員会の職責の配分)	年間ボーナス込み給与
村民委员会主任兼党支部書記	Wh氏 ⇒ 〈全村工作〉(村と村民のすべて仕事) 〈村级财经〉(村落財政と経済) 〈商品生产〉(商品の生産と開発) 〈综合治理〉(総合的な管理) 〈农民教育〉(農民の教育) 〈党群致富〉(党と群衆を富へ導く)	6万1千人民币
副主任・民兵隊長	G氏 ⇒ 〈民兵调节〉(徴兵と治安維持) 〈党建行政〉(党の建設と行政) 〈青年活动〉(青年の教育と活動) 〈村办企业〉(村落が運営する村の企業) 〈民政信访〉(民政の伝達と調査報告) 〈党群致富〉(党と群衆を富へ導く)	4万9千人民币
会計	Z氏 ⇒ 〈计划统计〉(企画と統計処理) 〈会记核算〉(会計の審査と計算) 〈村级档案〉(村落の保存書類の管理) 〈村组帐目〉(村組帳簿管理) 〈卫生户籍〉(衛生と戸籍の管理) 〈村组出纳〉(村組の収納)	4万6千人民币
婦女主任	C氏 ⇒ 〈计划生育〉(計画出産) 〈妇女工作〉(女性の教育)	3万7千人民币

出所：A村の揭示版より筆者が作成した。

よって構成されていることがわかる。

表1は、歴代の党支部書記と村民委员会主任について掲げたものである。ここに見られる特徴は、長年村民委员会主任と党支部書記が兼任されており、ここ約10年間変わっていないことである。現在中国の農村において、しばしば指摘されているのは、村の政策決定において、党支部書記と村民委员会主任との間で発生する権力争いである。A村の場合は、党支部書記と村民委员会主任は57歳のWh氏によって兼任されており、約17年間も政治的リーダーとしてA村を主導してきた。筆者が長山諸島の各島で調査したかぎり、A村のみならず、各島には村民委员会主任が党支部書記を兼任し、且つ連選連任する特徴が見られる。

表1. A村の歴代の党支部書記と村民委员会主任

1976年～1983年	党支部書記	村民委员会主任
		ZM氏
第1期 1983年～1986年	ZM氏	WC氏
第2期 1986年～1989年	ZM氏	WC氏
第3期 1989年～1992年	ZM氏	WC氏
第4期 1992年～1995年	ZM氏	CJ氏
第5期 1995年～1998年	ZM氏	CJ氏：Wh氏補佐
第6期 1998年～2001年	ZM氏	CJ氏 96年まで 97年から Wh氏
第7期 2001年～2004年	Wh氏	Wh氏
第8期 2004年～2007年	Wh氏	Wh氏
第9期 2007年～2010年	Wh氏	Wh氏
第10期 2010年～2013年	Wh氏	Wh氏
第11期 2013年～2016年	Wh氏	Wh氏

出所：A村の資料と掲示版より筆者が作成した。

村民委員会の幹部が連任する現象は、しばしば村民委員会の選挙¹¹⁾で宗族の支持によって村民委員会のメンバーが当選する¹²⁾ または投票の不正行為が背景にあることが指摘されてきた。特に村民委員会の候補者が、自分の宗族集団の関係を利用して、その家族勢力の規模から個人が村落における地盤を固められることが注目されており、即ち候補者が有する親族関係の人口の数で選挙

11) 筆者が調査した遼寧省の各縣市や民族自治地区は、1989年から農村各地で村民自治の制度化が進み、1994年に村民委員会の選挙が開始された。村民自治の選挙とは、「村民委員会組織法」第九条の規定によれば、村民委员会主任（村長）・副主任・委員は、村民の直接選挙によって選出する。村民委員会の任期は三年とし、その委員会のメンバーは、連続当選によって連任することもできる。満18歳の村民は、民族・種族・性別・職業・出身家庭・宗教信仰・教育程度・財産状況・居住期間にかかわらず、すべて選挙権と被選挙権を持つことになっている。

12) 例えば、今日中国の村民自治制度と宗族をめぐる問題を扱っている政治学者の肖唐鏢等による40の村の選挙調査でも、宗族の支持によって村民委員会が当選する調査事例が提示されている。肖唐鏢2002年『宗族、乡村权力与选举—对江西省二十个村委会选举的观察研究』西安：西北大学出版社，9頁を参照。

が決まるという考え方である。表2からは、A村の場合、Wh氏は、村落内の宗族人口は、10世帯154人と最大の宗族の人口を有していることがわかる。

表2. Wh氏が村落内で有する宗族の人数

	宗族の姓	宗族集団別戸数	宗族集団総人数
1	Y	4	20
2	Z	6	18
3	L	8	30
4	J	2	12
5	Li	7	26
6	C	10	42
7	ZO	3	12
8	G	11	37
9	GA	15	60
10	Su	1	4
11	Liu	12	45
12	M	9	33
13	X	10	35
14	Wh	40	154
15	M	3	7
16	SUN	1	4
17	ZU	26	84
18	YU	10	35
19	Q	4	17
20	YANG	16	57
21	F	1	4
22	GU	14	52
23	N	3	6
24	XIU	1	4
25	HUANG	5	15
26	ZHAO	4	12
27	FU	4	10
28	YI	2	5
29	SHI	1	4
30	XIAO	1	4
31	SONG	1	2

出所：戸籍資料と筆者が2005年～2010年の聞き取り調査により作成した。

われわれは、Wh氏が宗族と親族の連帯関係をもち、こうした親族関係の連帯が村落社会の政治に影響を及ぼしていることを推察できる。中国の400の村で調査を実施した孫秀林の回帰分析の結果においても、宗族組織と村民の互助関係には顕著な影響があることを指摘している¹³⁾

筆者が行った聞き取り調査に基づき、村民委員会の主任兼書記であるWh氏の選挙活動から、如何なるネットワークによって支えられ、当選したのかを明らかにするとともに、村民の村落政治に対する評価を見ていこう。村民個人とその周りの人々について、今年の村民委員会の選挙の投票行動について尋ね、その個人と親族集団の形成する社会ネットワークが帯びる村落政治の動向が、個人の投票先に影響しているかどうかも検討していこう。

3年に一度のスパンで3月初旬に、遼寧省の農村や漁村などの行政村では、一斉に村民委員会選挙が実施される。筆者が調査したA村では、以下の選挙のプロセスで投票が行われた。

A村における第11回村民委員会選挙のプロセスは、大まかに以下二つの段階に分けられる。

第一段階は、選挙の準備を行う。3月初旬に、村民委員会の会議が開かれ、そこで村民委員会によって、政府の村民委員会の選挙に関する制度の理念が読み上げられた。この段階では、村民代表会議を開き、また今期最後の村民委員会会議が行われる。

次に選挙に向けて、村では「村民小組」ごとに村民会議代表¹⁴⁾を選ぶ。規則では、「村民小組」ごとに、村民会議代表になる予定の候補者に対して賛成と反対の投票を投じることとなっているが、30名の候補者に対して反対票ゼロというかたちで、A村では30人の村民会議代表が選ばれた。というのは、積極的に村落政治に参加する意思を示す村民がいない限り、5～15世帯に一

13) 前掲孫秀林2008年、99頁を参照。

14) 村民会議代表とは、多くの村は人口が多く、全村民を招集して会議を開くことが困難であるため、通常「村民会議代表」が設けられる。村民会議代表は村民委員会を監督する機能をもつ。一般には、5～15世帯から一人の代表を推薦で選出し、代表は村民の意見や提案を会議に提出する。村民代表会議は計画出産指標、住宅用地の分配、軍隊入隊、電気料金の上納などの重要な問題について、村民委員会の会議に参加し決定を行う。

人の割合で当番順に選出されるからである。表3は、村民代表会議のメンバーを示したものである。表3からわかるように、村民代表会議のメンバーの特徴は、女性が含まれており、かつA村は共産党員が少ない。ちなみに30名の村民会議代表の年齢層は、50代から60代の世帯主である。

表3. 村民会議代表メンバーの特徴

性別	男	女
	23	7
党員	党員	非党員
	8	22
連任	連任	非連任
	10	20

出所：A村の選挙資料により筆者が表を作成した。単位：人

選挙に向けて、村民代表会議が開かれる。村民委員会の正式な規則では、村民代表会議では、無記名投票の方法で、村民委員会の選挙管理委員を選出することになっている。しかし、筆者が聞き取り調査した限り、また、会議ではよほど積極的に選挙を主導していきたくない意思がない限り、会議の場で主張しない限り、大抵、和やかなムードの中で村民たちはお茶とお菓子を楽しみながら村落政治への関心よりも日常生活または漁場や養殖の情報交換に話が弾み、前回の選挙の経験者にまたお願いすることが自然の流れとなっている。後述するように、この背景には村民の多くがWh氏を支持しており、村民委員会の選挙は形式的なものに過ぎず、実質的にはWh氏が再選されるのは暗黙の了解であった。

村民委員会の選挙に向けて、第二段階では、住民登記記録から選挙に参加する資格を有する村民、「選民」（選挙の資格を有する村民）の集計を行う。次に村民委員会の候補者が選出される。選出の方法は、「村民小組」ごとに投票場所を設置して、村民1人につき一票で、選挙候補者の名前が記され、票を多く獲得した上位7人が候補者に選ばれる。選ばれた候補者は、村民選挙管理委員

会によって承認される。選挙日には、無記名方式の投票によって、票の獲得数の最も多い候補者が村民委員会主任に選ばれる。以下表4は村民委員会選挙の投票結果である。

選挙結果からわかるように、Wh氏は、圧倒的な勝利で当選した。筆者が長山諸島の各島で調査をした限り、これはA村のみ見られる現象ではなく、他の村でも村民委員会主任の当選獲得票数が高く、かつ投票率は80%以上であるという特徴がある。この背景には、3月の昼間に行われる選挙は、養殖漁業で最も多忙を極める時期¹⁵⁾であるために、世帯主の男性の票は、しばしば妻によって代理投票されることがある。代理投票の規制は、中国陸地農村部ではいくらか厳しく制限されているが、長山諸島の場合、養殖漁業の最も多忙期と重なるため、代理投票の規制は投票率の低下を招く恐れがある。当選した村幹部にとっても、当選票数がある意味、村民の自分に対する評価であり、上級政府が自己を評価づける物差しでもあるため、家族による代理投票は規制されていない。

またWh氏は党支部書記と村民委員会主任を兼務しており、A村の村落内にお

表4. 選挙結果

選挙有権者数	627名						
投票者数	627票						
有効票数	599票						
棄権票数	28票	2位	3位	4位	5位	6位	7位
村民委員会主任当選獲得票数	480票	47票	28票	20票	17票	6票	1票
村民委員会副主任当選獲得票数	371票						
村民委員会会計当選獲得票数	449票						
村民委員会婦女主任当選獲得票数	394票						

出所：A村の選挙資料により筆者が表を作成した。

15) 長山諸島では、帆立貝生産は、主要な経済品目である。3月中旬から下旬には、帆立貝が産卵後浮遊する幼生を採苗器に附着させて、稚貝を採取する作業時期であるため、最も多忙な時期である。

いて強い政治権力をもつ。自己の権力基盤がある程度固まっていることを内外に示すためにも、当選票数はある程度意味をもつものである。そして Wh 氏のように村民委員会主任と党支部書記を兼任することに対しては、中国政府はむしろは奨励している。2002年7月中国中央委員会と国務院は共同で「村民委員会主任和党支部一肩挑」（村民委員会と党支部書記の兼任）と「合并党支部和村委会两委合并」（村における党支部と村民委員会の合併）を批准した。この背景には「先党后政」（先に入党させた後に政治に携わる）というプロセスを確立させ、共産党への入党を増やす狙いがあるとともに、支給される人件費の圧縮や党支部と村民委員会の対立を避ける上でもメリットがある。長山諸島の場合、陸地農村と比較すると共産党員が少なく、近年党員数は更なる減少傾向にある¹⁶⁾

Wh 氏の圧勝は、ある意味、村民の多くが予想通りであるにもかかわらず、ではなぜ選挙の際に村民は投票に行くのだろうか、また代理投票するのか、それを決定する要因は何かについて検討しよう。

筆者が各「村民小組」において聞き取り調査した限り、大多数の村民は、過去13年以上にわたる Wh 氏の村落運営に満足しており、特に漁業生産性の向上のための環境整備によって村民の収入や村の経済を豊かにした功績が評価されている。村民代表会議への招集も、多くの村民はできる限り欠かさず出席をしている。しかし筆者が村民代表会議を観察した限り、村民代表会議に参加する村民すべてが村落政治に対して関心をもち、政策決定に口出しをして1票を投じているわけではなく、むしろ、参加者とのお喋りを楽しみ、政策決定は Wh 氏の説明を聞きながら村民委員会に委任する光景が見られたのだった。

ロレンとターナーは1996年から2000年までの期間に57の村の村民委員会選挙に関する回帰分析の結果によれば、完全に村民によって候補者として指名された村幹部は再選再任率が高いこと、それと関連して選挙で改革すべき点として、代理投票の規制と村民による候補者指名に関する参加度を高めるべきで

16) 筆者が聞き取りした限り、2000年の時点で長山諸島の共産党員数は5,940人であったが、2010年には5,547人と減少傾向にある。ちなみに2010年の長山諸島の総人口数は7万7,951人、党員数は総人口の約7%を占めている。

あることを指摘している¹⁷⁾ A村のWh氏の当選は、ロレンとターナーが指摘したように、完全に村民によって候補者として指名されたものであり、且つ四回も再任を果たしているのだが、ここで留意すべき点は、なぜ村民はWh氏を支持し、背後にはどのような社会関係が構築されているのかである。

Wh氏は、同じくA村生まれの女性と結婚し一人の子供をもつ。同世代(=50代)層の中では村で唯一の高等学校の学歴をもつ。上記の表2で示したように、Wh氏は、A村では村落内の最大の人口を有する宗族に属している。親族関係のネットワークは、個人のネットワークの中で重要な位置を占めており、とくにA村のような一島一村の離島地域では、日常生活内での親族関係の協力やサポートは重要である。また親族関係を無視した行為は、「六親不認」(親族関係を無視する)という言葉からもわかるように避難されるものであり、親族関係では規範的な対応が求められる。しかし宗族と選挙に関する先行研究が既に明示しているように、個人は、同じ宗族に属する親族集団とは、投票先に関する合意がきわめて高い傾向にあるが、宗族の紐帯に対する感情的なもののみが、一概に機能しているとは言いきれない。

肖唐鏢が1999年に江西省800人の村民を対象としたアンケート調査で指摘したように、人々が同じ宗族の成員に投票する動機は、理性的なものであり、村幹部が当選した後に自己たちへの面倒見を期待しているからであった[肖唐鏢2010:247]。また、筆者が2004年に行った農村の調査で明らかにしたように、宗族内の各世帯の人々は、宗族が有利である側面と不利である側面を熟知している。宗族が有利である側面とは、村落内の人的資源を最大化して利用する必要があるときに、自己の宗族を利用することである。不利な側面とは、自己の宗族の人口が村落内で最大であるが故に、限られた資源を獲得する際に、村は時として同じ宗族内の世帯と競合関係を強いられることである¹⁸⁾ この宗族内の競合関係は、危機として人々の前に現れる。この危機に際して、

17) Loren Brandt and Matthew Turner, 2007, The Usefulness of Imperfect Elections: The Case of Village Elections in Rural China, *Economics and Politics*, 19(3), pp. 478-479 を参照。

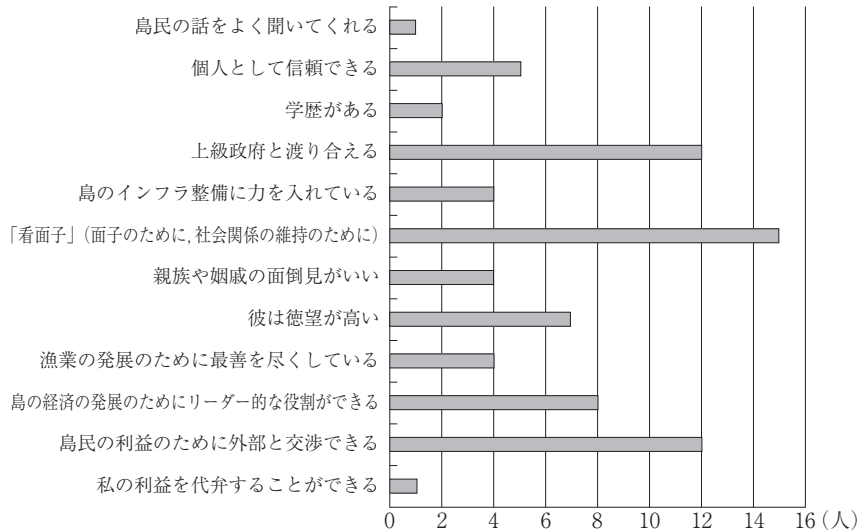
18) 緒方宏海 2009年「現代中国農村の宗族が「村民自治」に及ぼす影響分析(2)中国遼寧省の農村の事例を中心にして」『政治経済史学』(512) 43-45頁を参照。

人々にとって利用できる人的資源は、姻戚関係である。何包剛が指摘したように、中国の農村部では、「人口の流動性の増加、居住方式の変化、婚姻家庭の機能の変化、及び国家の監視能力の増大によって、宗族勢力が郷村の民主主義に与える影響は非常に限られたものである」[何包剛・朗友兴 2002：188]。

長山諸島の場合は、島民の多くが漁業への収入に依存しており、陸地に職を求める島民はごくわずかであるため、人口の流動性は低い。このため姻戚関係は、宗族関係と同じく島民にとって重要なネットワークである。筆者が聞き取り調査した限り、争い事がなく良好な関係である場合、Wh 氏の宗族に加えて、同じ村に居住する妻側の姻戚も Wh 氏を支持している。では村の中で親族関係をもつ人々が少ない、所謂「小姓」の人々の Wh 氏に対する支持はどうか。

図2は、Wh 氏に投票した「小姓」の人々が投票した一番の理由について、A 村の三つの「村民小組」のうち、Wh 氏と親族関係をもつ島民が最も少ない

図2. 投票した一番の理由



出所：筆者のフィールドノートにより、筆者がグラフを作成した。

「村民小組」の島民について、75名の島民個々にインタビュー調査をした回答結果である。

投票した一番の理由では、「看面子」（面子のために、社会関係を維持するために）を選択した島民が最も多い。次に多いのは、上級政府と渡り合えることと島民の利益のために外部と交渉できる Wh の交渉能力についてである。人類学の Hu, Hsieh（胡先缙）が指摘したように、面子は個人が努力によって培われてきた名声である¹⁹⁾ Wh 氏への「看面子」や人望が高いという回答を見ると、そこには、Wh 氏が村幹部としての評判を上げて名声を得ており、村落内では支持を得ていることがわかる。しかし「小姓」の人々の考え方には、「大戸」（「姓」（宗族）の人口が多い）候補者には、人数からも勝てないという考え方もある。そしてたとえ自己が当選したとしても、「大戸」の人々を相手にして仕事をするのは、多くの困難が予想される。このため「小姓」の人々は、村落内に多くの人口を有する宗族の家と関係を悪くしたくないという意識が働く。そして投票に参加すること自体は、「大戸」に対して、「看面子」（相手の面子をたてる）、ということである。その背景には、多くの村民にとって、何代にも渡って培われてきた社会関係が存在している。何代か前をさかのぼれば、結局親族関係をもつということもある。そして村落社会における社会関係を大事にしていきたいという考え方に起因する。ここには、A 村の人々が話す「看面子」というように、村落社会内で血縁や地縁関係によって生み出された「面子」（面子）をめぐる行動様式がある。「看面子」の行動様式では、台湾の社会心理学者黄光国が指摘しているように、O という請願者の願いを A が承諾し O の面子を立てた場合には、請願者 O は A に対して自己には面子があり、同時に A に借りができたというように考えるのである [黄光国 2010: 148]。

Ⅲ. 利益をめぐる駆け引き

中国の郷鎮政府は、地方行政の最下級レベルに位置し、国家権力の末端組織

19) 胡先缙「中国人的面子」黄光国編 2010 年『人情与面子：中国人的權力遊戲』北京：中国人民大学出版社，45-46 頁を参照。

であり、郷・鎮レベルの党委員会書記と行政トップは上の県レベルから任命される。村民自治が実施される以前は、郷鎮政府は管轄地区の経済発展や教育、文化、衛生など多様な役割を担っていたが、村民委員会の成立以降、こうした業務の多くは段階的に村に移管された。

2006年以降、農業税を主要財源としていた郷鎮政府の中には、農業税廃止に伴い自力で財政的補填ができない地域があらわれた。中国政府が農業税を廃止した狙いは、税の廃止を通じて農民の負担軽減や格差の不満を抑えるためであった。農業税廃止により財政的補填ができない経済発展が遅れている奥地の農村部や中西部地域の郷鎮政府には、中央政府が財政移転支出の補助を行うことで補填することが一部で実施されたものの、長山諸島のように沿海に位置し経済が発展した地域では、原則的に郷鎮政府による自己補填となっている。

長山諸島の場合、特に漁業の中でも海水養殖業による大規模な発展によって、郷鎮政府の財政収入に大きな恵みをもたらした。表5は、長山諸島の5つの郷鎮の内、比較的裕福な郷鎮の財政状況である。しかし表5から見てわかるように、2004年以降、支出は収入を超過している。中国の農村税費改革は、農民の負担軽減の一環として、先に農業特産税²⁰⁾次に農業税が廃止、減免されることとなっていた。長山諸島の場合、漁業の発展によって農業特産税が占める割合が大きいため、先に農業税が廃止され、2007年から農業特産税が廃

表5. 広鹿島の郷鎮財政

	総収入	総支出	地税総収入	内：農業税	内：農業特産税
1998年	425	478	423	10	346
2000年	517	503	498	8	427
2004年	517	872	378	0	217
2008年	321	11,635	329	0	0

出所：広鹿郷志編纂委員会編 2010年『広鹿郷志』哈爾濱：黒龍江人民出版社，306-307，313頁を参照にして筆者が表を作成した。単位：万人民币。

20) なお、農業特産税には漁業が含まれている。

止された。ここで指摘しなければならないのは、郷鎮の財政難と村幹部の給与との関係から垣間見える、人々の社会関係の重要性である。

村民委員会の給与は、『中華人民共和国村民委員会組織法』（1998年11月成立2010年10月改正）第2章6条²¹⁾によれば、村民委員会の委員は業務の状況に応じて手当が支払われることとなっている。村民委員会の委員の給与は、厳正に規定された労働給与ではなく、「误工补贴」（生産活動を離脱したために支払われる手当）である。また村の中で手当の支給対象と金額は、原則的に村民会議で決められる。つまり村幹部の給与は、自治の範囲内で村民が決めることとなっている。また1998年に「中共中央办公厅国务院」（国务院）は、村幹部の給与は村落業務で公開するよう指示している。しかし実態として多くの村は、村幹部への給与の支払いに対する財政難を抱えており、しばしば不足分を村民から徴収していたが、多くの場合村民の反対に遭い徴収できずにいた。例えば江西省の40の村を調査した肖唐鏢等によれば、大多数の村では約4年間にわたり給与が支払われていないために、「无钱办事」（村にお金がないから業務をやらない、できない）現象が多々あった²²⁾

重要な問題は村幹部の給与が、実態として「村民委員会自治組織法」にあるように村によるものではなく、中国各地域の郷鎮政府が独自のルールに基づき、村民委員会の委員に給与を支払っていたのだ。これゆえに、村幹部の給与は郷鎮政府から支払われているため、村民委員会は郷鎮政府の言いなりではないかという指摘がされてきた²³⁾ これに拍車をかけるように「郷鎮政府」の重

21) 「中华人民共和国主席令第三十七号」『中央政府门户网站』（中央政府ウェブサイト）2010年10月28日。http://www.gov.cn/flfg/2010-10/28/content_1732986.htm を参照。

22) 唐晓腾編 2007年『基層民主選挙与農村社会重构-转型期中国乡村治理的实证研究』北京：社会科学文献出版社，228頁を参照。

23) 例えば孫昕等は2004年に六つの省114の村1,918名の村民を対象にして行ったアンケート調査結果から、結論として郷鎮政府はその上の上級幹部が課している任務を完了させるために、村民委員会の選挙に関与せざるを得ない、特に任務を遂行する際に村幹部の協力が不可欠な場合である。郷鎮政府による村民委員会の選挙に関与は村民の郷鎮政府に対する不信を招くものであり、郷鎮政府に対しても、民主的な選挙を実施すべきであることを結論付けている。孫昕・徐志剛・陶然・苏福兵2007年「政治信任，社会资本和村民选举参与-基于全国代表性样本调查的实证分析」『社会学』第4期185頁を参照。

要な収入源であった「三提五統」（3項目の控除金と5項目の行政維持費）も、2000年から2006年にかけて（長山諸島では2002年以降）廃止されたために、郷鎮政府の財政基盤の弱体化を更にもたらした。

中国の郷鎮の人口は、平均では3万～4万人程度であり、約70人前後の職員だけでは、各村各世帯の情報処理やサービス業務を担当することが困難であり、しかも財政難を抱えるなかで人員削減がされており、郷鎮政府は、実態として村民委員会を助手的に使い行政業務を行っている現状にある。例えば、長山諸島の場合、村幹部の給与は、「双評議」と呼ばれる村民による民主的な評議と郷鎮政府による当該年度の「考核方案」（審査法案）に基づき行われる。図3は、給与額の決定に関する審査方法を示したものである。

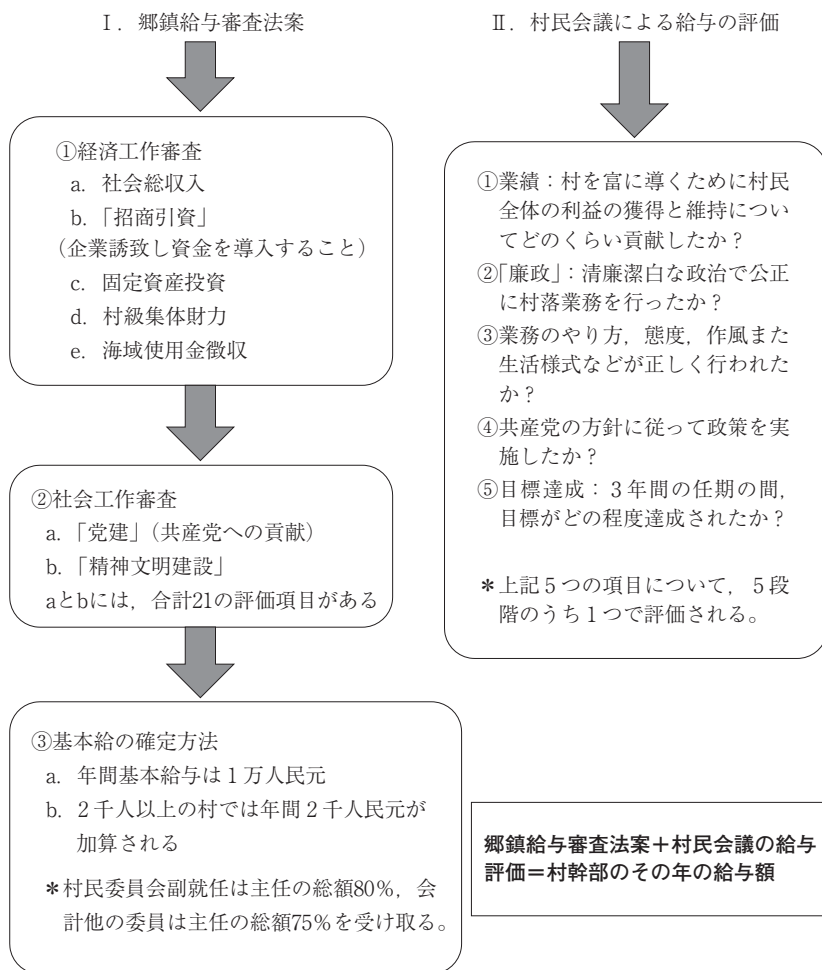
図3からわかるように、村幹部の給与は、郷鎮政府と村民会議によって決定されることがわかる。筆者が参与観察を行った村民会議による村幹部の給与審査を見た限り、毎年1月初めに、普段と同じように穏やかなムードで村民会議代表のメンバーによって行われる。村民委員会主任は、自己の仕事に対する当該年度の反省と新年度の抱負について、全員の前で述べられることとなる。以下は、筆者が調査できたA村の村民委員会主任による「廉政」（清廉な政治）と年度報告と新年度抱負について発言の部分である。

【「廉政」についての発言】

私は終始一人の黨員として厳格に自分を律し続けており、積極的に村の各世帯を訪問し村民とのコミュニケーションを取ってきました。村民が村民委員会に対して要求している業務を的確に把握し、私の力が及ぶ限り村民のために働き、村民が抱える難題と村民のためになる良いことに対して実現できるように具体的な計画をたてて最善を尽くしてきました。法に基づいた行政的業務を行い、職権を乱用し、食べる、持ち帰る、村民を経済的に抑えようとするまたは賄賂を要求したりするなど、村民全体の利益と共産黨員のイメージを損なう行為を今までしたことがありません。

出所：村民代表会議で聴き取りした内容を筆者が日本語に訳し作成した。

図3. 当該年度の村民委員会給与の「考核方案」(審査法案)



出所：大長山島鎮党政办公室 2012年『長山県大長山島鎮2012年度村級工作総合考核法案』の内容を参考にして、筆者が図を作成した。

【年度報告と新年度の抱負についての発言】

村民代表の皆さん：こんにちは。郷鎮政府と党委員会の指示に基づき、これから私本人の2011年度の村落業務の報告と新年度の抱負について述べていきます。

一、業務の遂行方法を追求し、チームとして一致団結してより良い村の雰囲気をつくる

私を指導してきた党組織に対する恩返しと村民の期待に応えること、また村民委員会のリーダーとして村の発展のために先頭に立つことについて、私は深く責任の重大さを感じています。従って、実際の業務を遂行する際には、私は一方では郷鎮の党委員会政府の指導と指示に依拠しながら、村民委員会の各項目の業務を行ってきました。他方では村の党員と村民委員会メンバーの積極性と主導的な立場、責任感を重視しながら、チームワークの下すべての業務を行ってきました。村民委員会のメンバーを信頼し、彼らが独自で業務を展開できるように安心して任せており、また時としてアドバイスもしながら、各項目の業務について互いに協力してきました。またチームワークの下で団結し、共同で業務遂行することにより良い環境、雰囲気を作ってきました。

二、更に学び、態度を正し、博識のある指導者を目指す

私は、自分自身の素質と業務水準を高めるために更に努力し続けていきます。日常的な業務を行うときには、私は、自分の政治理論に関する知識が不足していることを深く実感しています。政治理論に関する学習を強化し、政治理論の水準と思想道德の素質について更に努力していくことが私の今後の方向性であり、同時に他の村の優秀な管理経験とそのノウハウについても学ぶ必要があると痛感しています。これらは、私自身が今後村落業務を遂行する際に、順調な発展をもたらすものであると考えています。

三、統一的に計画し各方面に配慮すること、力強く村落業務を遂行する！

本来平日私自身の企業を管理しなければならないために、村落業務の作業に投入する精力は少なく、日常作業では同僚である村民委員会メンバーと村の党支部の両委員メンバーに苦勞をかけました。

村民委員会と村の党支部の両委員の業務は、糸口が見つからないほど事柄が

入り組んでいるが職務役割分担と責任を明確にしているため、両委員の業務は順調に効果を発揮しており、業務を彼らに任せることに対して私は安心していきます。私は常に村の中にいるとは限りませんが、私が村に対して無関心なのではなく、また村落業務に対する情熱を持っていないのではないのです！ 私は常によく村民委員会と村の党支部の両委員会と懇談し、業務の進展状況について総括してきました。彼らが困難に遭遇したときは、私は自己の手元の仕事よりも、全力で彼らが遭遇している問題について解決できるよう努めてきました。

四、力がある限り、村民のためになる現実的な具体策を実施していく！

養殖漁業は、ここ数年の経済的な落ち込みを経験しており、漁業資源も乏しく、養殖と漁獲はいずれも楽観視できない状況にあります。この村の経済の発展を牽引し、労働力と雇用問題を解決するために、今年私は、自分の会社で、6人の本村の村民を社員として雇いました。また私の会社が請負をしています海域を一般の村民、漁民のために開放しました。養殖と漁獲で苦境に立たされている漁業世帯に対して有効な解決策を実施してきました。私自身はA村のこの海域で裕福になりました。裕福になったことで村と社会に恩返しをすることを忘れていません。貧困世帯への扶助について積極的に参加しており、この村で生活が困難な党员、困難な村民等に対しても援助活動を行ってきました。年配の党员と年配のベテラン幹部には、祝祭日に家庭訪問を行いました。毎年の春節には、村の貧困世帯のために、米と麵、油と資金を届け、何年も村民のために冬期のリンゴなどを購入し続けてきました。盛大な祝祭日には、私が請負をしている海域を開放して、村民が自由に潮干狩りできるように許可して、彼らの生活を改善することに努めてきました。私は県の「人民代表大会代表」として、数年来、積極的に県と郷鎮政府の代表大会に参加してきました。村民の意見と叫び声を上級政府に反映できるよう主張してきました。そして、漁民の作業海域、村幹部の給料待遇、村の港の建設など、村民が切実に願う比較的大きな民生問題は、すぐに上級政府に伝えてきました。私の努力を通じて、村の港の工事は、既に2012年の郷鎮政府の重点工事の一つとして確定されました。村民が長年にわたり、島から出入りする際に感じた港の建設という難解な

問題は、まもなく解決されます！

2011年、私の村落業務はすこしの進歩を得ることができました、ただ村民が私に対する要望とはまだ一定の距離があること、私は深々と感じています。私が行う各項目のいずれの業務も全て党委員会、郷鎮政府、村民の皆様のご支持と信頼を離れて行うことはできません。この場をおかりして、私は皆様に心からの感謝を申し上げます。同時に皆様がこれまでと少しも変わりなく、私と村の両委員会が行う業務に対して、貴重な手助けとご支持をいただきたいです。村民皆様のご理解と支持の下で、私は2012年の年間業務をうまくやり遂げられると確信をしています。村民の皆様どうもありがとうございました。出所：村民代表会議で配布された資料を筆者が日本語に訳し作成した。

上記の村民委員会主任の発言を見る限り、村民と信頼関係を構築するために自己の能力と業績を証拠として述べていることがわかる。ルーマンが指摘したように、「先行する一切の情報がなかったとしたら、信頼はほとんど不可能である。信頼とは超過して引き出された情報なのであって、信頼を寄せる者はたしかに十分に詳しく・完全に・信憑性を伴ってないにせよ、しかし、一定の基本的な特徴に関しては事態に通じており、既に一定の情報を得ているということが、信頼の基礎なのである」[ルーマン1990:57]。

また注目すべきことは、村民委員会主任は、自己が経営する会社を村民のために、自発的に海域を開放した村民を雇入れるなど便益を提供し、その見返りに村民の高い評価と支持を得ようとしている。ある意味村幹部は、村民から得られる高い評価は自己にとっての利得であるが、自己が村民からの高い評価を得るためには、自己は村民に満足を与えねばならず、それには会社の活用、贈り物、リンゴの購入というように、自己犠牲とコストを支払わねばならないのだ。そして郷鎮政府と県政府との強力なパイプがあることを強調しており、それによって港の建設が始まったことを業績として挙げている。村民側も、村幹部のこういった外部でのパイプ関係が村を富ませることを熟知している。例えば、筆者が遼寧省鳳城市で調査した観光で成功した村の場合も、村のリーダーの上級政府との強力なパイプがあつてこそ村の観光開発を成功させたのだ²⁴⁾

村幹部は、自己の給与に関わる経済的利益の最大化を目指す場合、村幹部の業績成績が給与に直結するため、村をより富ませることが必要であるほかに、郷鎮政府と村民側、両者の満足が得られるような働きと交渉をする必要があり、自己の手腕によるところが大きい。しかし常にこれらの社会関係や利得の調整がうまくいくとは限らないのだ。次章では、長山諸島の村幹部と村民をめぐるもめ事の処理を見ていくことで、地域社会固有の社会関係の特徴からその政治空間をさらに浮き彫りにしてゆこう。

IV. 嫉妬の抑制、もめ事と政治的境界

本章では島民の生活世界において、しばしばみられるもめ事について、またそれらもめ事の火種となりうる嫉妬という問題について着目し見ていくこととしよう。

今日、長山諸島の漁民は、各世帯が利益の最大化を目指すかたちで個人経営が盛んに行われている²⁴⁾ 外部観察者から見れば、島民は日常生活のなかで、自己中心的であると見られがちであるが、実際、村落政治の様々な場面において、島民たちは協調を目指している。筆者が長山諸島をフィールドに選定し初めて調査をしたとき、乗船した船の船長は、「島上人心齊」（島民は心を一つにしている）ことを語っていた。しかしこれはあくまでも、見知った島民同志による関係であり、島内にいる仲間に対してはいくらかの安心と寛大さがみられるが、島外部の新規参入企業、とりわけ島民の利益を横取りしようとするいわゆるよそ者に対しては、強い不信と不満を示す場合がある。近年、長山諸島では、島民と外部企業との集団的な暴力事件が起こっており、陸地の警察官が派遣され事態の収拾に駆けつけたほどである。

筆者は、長山諸島のS島にて、夏季に一ヶ月ほど短期調査を実施した。宿

24) 緒方宏海 2009年「中国における「郷村観光」の実態に関する社会人類学的研究」『旅の文化研究所研究報告』(17), 1-14頁を参照。

25) 緒方宏海 2013年「中国黄海島嶼における漁業と家族生活：長山諸島の一島嶼村落の事例を中心に」『芝浦工業大学研究報告』(人文系編 VOL. 47 NO. 2), 21-28頁を参照。

泊先は、S島の村民委員会主任が家族で経営をしており、開業間もない島で唯一の新しいホテルであった。ところが筆者が滞在中のある日の夕方に事件が発生した。村民委員会主任が経営していたホテルで、島で大規模な養殖を行う外部企業の社員達が、食事とお酒を楽しんでいた。しかしホテルの従業員である村民と外部企業の社員との間で口論となり、やがて外部企業の社員19人によって、ホテルの建物の外壁や窓ガラス、各宿泊部屋などが壊されるに至った。外部企業の社員を宥めようとした村民委員会のメンバーも暴行に遭い負傷した。このトラブルの背景には、村民委員会の主任が、前掲図3にあるように、郷鎮政府が業績審査で課している「招商外資」（企業誘致し資金を導入すること）を島に招き入れることに成功したのだが、外部企業の社員達と村民が海上・陸地を問わず些細なもめ事を積み重ねたことに対して仲裁できずに、もめ事を収めるつもりでの行動が効果を得ずに逆にトラブルの炎上を招いてしまうという矛盾の存在に求められる。

外部企業の社員達は、村民委員会主任が経営するホテルを集団で破壊することで島民への威嚇と見せしめにしようとしたのであった。島には警察官が常駐しておらず、ホテルの経営者と客は部屋に隠れるか山のほうに逃れるしかなかった。通報から約2時間後に陸地からやっと警察官が島に上陸し、外部企業社員等19人を逮捕した。

長山諸島の場合、各家々では、日中に窓を開け、外出する際も戸締りなどをしない、陸地農村と比較すれば治安が良い地域である。中国の村落社会では、家庭内の争い事が村で暴力行為を伴う喧嘩沙汰になった場合、世代と年が上である互いの家族による介入が一番よい解決方法である。それが不可能な場合は、よほど親しい社会関係でないかぎり一般の村民は、喧嘩に巻き込まれることを拒む傾向が強く、しばしば眺めるだけである。しかし、長山諸島の場合、島民は例え社会関係にヒビがある関係でも、所詮同じ島民であり、緊密な親族ネットワークがあるため関係がすぐ修復する可能性があることを熟知しており、島民同志の喧嘩は、すぐに誰かが仲裁に入ることが多い。

近年養殖漁業が年により損失を被ることがあるために、漁業に代わって、長山諸島の各島の漁民は、夏季の観光業「漁家楽」（漁家が経営する民宿に泊ま

り、マリンスポーツや漁業を楽しむ)を行い、収入を挙げてきた。5月のゴールデンウィークから9月初めまで、長山諸島の各島の港に降り立つと、「漁家楽」を営む各家々のワンボックスカーが寄り添うように並び、客待ちをしている。しかし同じ見知った関係にある島民同志が、観光客を取り合うことはめったにない。また実際、互いに協力することで築く社会関係のほうで、後の島内生活で何かと互いの世話になることが多いため、島民はその見返りがあることを期待しつつ互恵的かつ利他主義的な行動を基盤に置いた社会関係がそこにあるといえよう。

島民は、日常において、漁業または夏場の観光業で自己の利益やお互いに対する嫉妬の状況に晒されているが、島民は他人と自分を比べようとすればするほど嫉妬が起きやすいことを熟知している。しかも狭い島内において嫌でも互いが遭遇する機会が多く続くため、社会関係に波風立てない平和な島内の暮らしを望んでいる。ところが、島外部から参入してきた企業には、自分たちが漁業や観光業の得られるはずの利益を横取りされたときには、とくに村幹部は激しい批判・非難にさらされる。

下記写真1にあるように村幹部の給与は、「双向考核指示額」(郷鎮政府と村民の評価)と「代表測評比值」(「浮動奨励金」(特別奨励金))によって評価されるが、とくに「招商外資」、「海域商使用金」などは、「浮動奨励金」(特別奨

写真1. 村幹部給与の揭示板

干 部 工 资				
职 务	双向考核 指标额	代表测评比值		工资 总额
		上浮比值%	上浮工资额	
党 总 支 书 记 兼 村 委 会 主 任	49534	19.43	9625	59159
村 委 会 副 主 任	39127	16.59	6567	46193
村 委 会 委 员 村 委 会 会 计	37564	17.7	6653	44217
村 委 会 委 员	37564	18.29	6871	44435
村 委 会 委 员 妇 女 主 任	10000	17.43	1743	11743

出所：2012年8月筆者が撮影した。

励金)として支払われるため、村幹部の業績次第で更に増額が見込める部分である。

このため村幹部は、自身の給与額または村民委員会メンバーの給与を増額させるためにも、外部から「招商外資」を招き入れたい思いがある。しかし多くの場合、島へ参入する外部企業と島民の間には利益をめぐる対立を生んでしまう結果となっている。島に参入した外部企業側は、陸地の出稼ぎ労働者を雇うほうが賃金を安く抑えられるため、また複雑な島内の社会関係に配慮する必要もないことから、島民が外部企業の下で働く機会は、出稼ぎ労働者に比べてずっと少なくなっている。また外部企業は、漁場または観光客の争奪をめぐる、島民同士のように互いに幾らかの配慮で利益調整を行うのではなく、自らの漁場への侵入には容赦ない警告を行い、観光客の宿泊費の値引き交渉も独自で行うため、島民との利益をめぐる対立が絶えないのである。

島民同志の場合、嫉妬しているという他者からの攻撃を避けるために、自らの営業である漁業以外に宿泊業、運送業など様々な事業に進出・展開して収入源を創出しようとしてきた。島民たちは、日常生活では、他の島民への献身的な奉仕と、他の産業に力を入れるあるいは他のものに頼る(陸地の不動産の購入や子供の大学への進学など)によって間接的に自己顕示を行っている。島民たちは周囲と協調をすることを余儀なくされており、そのことが結果として、利益対立をうまく回避してきた。

筆者が陸地地域で調査を実施してきた村と比較すると、長山諸島における村民委員会の選挙は、他地域よりもいくらか穏やかなやり方であった。村民委員会選挙において、基本的に政策論争はなく、また直接的な利害関係が表に現れることもなく、選挙は「候補者への信頼」の是非を問うそのものの過程として行われた。村幹部が村の資金を不正流用するなど村民を裏切るといったことがない限り、その信頼が不信へと変わることはない。しかし唯一、「海域使用金」の徴収だけは、村幹部は慎重に判断を行うことが必要であり、さもなければ村民の深刻な民心の離反を生む結果となる。

長山諸島は土地面積や鉱物資源があまりないため、工業や商業の発展には限界があり、農業特産税は県政府の主要な財源であった。農業特産税が廃止され

た以降、県の財政基盤が衰弱しており、この打開策として「海域使用金」が、従来の10 畝²⁶⁾ 10 元から80 元に増額された。この時から「海域使用金」に対して多くの島民が不満をもった。島民にとって「海域使用金」は日本の植民地支配期以来実施されたことがなく、そもそも海は自分たちのものであり、「海域使用金」の徴収はすべきではないという思いが根強い²⁷⁾ 2001 年に中国の国務院が「海域使用金」に関する法律的な解釈を行っているだけであり、明確な徴収時期と金額の規定はなく、徴収金額なども各地方政府に一任している実態にある。長山諸島の場合、「海域使用金」の徴収は県財政の重要な財源であるため、2010 年には1.13 億人民元が徴収された。これは前年度より21.5%増加した。増加の背景には、郷鎮幹部が行う村幹部の給与評価に「浮動奨励金」という奨励金が反映されているため、村幹部は各自で村民と交渉しながらある程度徴収を行っていたからである。

図4. 「海域使用金」の徴収と村幹部の「浮動奨励金」との関係

村幹部の海域使用金徴収にかんする「浮動奨励金」(特別奨励金)

- ・実際に徴収できた「海域使用金」の0.3%を手当として支給する。
- ・「浮筏養殖」(筏等を設置してカキなどを養殖する漁業)の使用金をすべて徴収できた場合は、奨励金の基礎給与の30%を増額する。
- ・徴収すべき指標の80%以上を徴収できた場合は、奨励金の基礎給与の30%を増額する。
- ・徴収すべき指標より超額して徴収できた場合は、超額徴収できた部分の5%を奨励金として受け取ることができる。
- ・徴収すべき指標の80%を徴収できなかった場合は、すべての奨励金を受け取ることができない。

出所：大長山島鎮党政办公室 2012 年『長山県大長山島鎮 2012 年度村級工作綜合考核法案』の内容を参考にして、筆者が図を作成した。

26) 1 畝は、中国の伝統的な面積の単位で、6,000 平方尺(60 平方丈)、1 ヘクタールの15 分の1、6.6667 アールにあたる。

27) 例えば記者である王澤农の取材によれば、長山諸島の漁民600 人が「海域使用金」を徴収すべきではないと署名し、また、地方政府による不正徴収を訴えていたことを報じている。王澤农「一项不该收取的费用何来“减免”-大连渔民质疑养殖用海缴纳海域使用金」『中国水産』2007 年第一期 19 頁を参照。

筆者が長山諸島の各島にて聞き取り調査した限り、多くの村幹部は、三年後の当選のためにも島民の支持を得ることが自己にとって重要であることを熟知しており、「海域使用金」の徴収に対しては、各自が利益の最大化を必ずしも目指していない。それでも長山諸島の村によっては、村民委員会主任が村民と交渉せずに、強制的に「海域使用金」の徴収をしたために、全村民の反対に遭い、村民の集団圧力によって海域使用金の徴収ができずに、自ら辞職へと追い込まれたケースもある。中国の農村において、村民は政治参加と民主的な管理が本当に彼らの利益と切実に関連していると感じた時に、村民達は、はじめて政治参加に対する興味と民主的な管理に対する情熱を、経済収入の増加と同じように増加させていくのである。

長山諸島の島民も陸地農民と同じように、村幹部が郷鎮政府と手を組み、村民の利益よりも自身の利益の追求に走った場合には、農村と同じように「上訪」（中央政府に直訴すること）することがある。筆者が長山諸島の各島で聞き取り調査をした限り、H島において一回だけ島民が「上訪」したことがあった。H島の村民によって「上訪」された村幹部は、県政府によって職を解かれたが、その次の村民委員会選挙では、郷鎮政府の監視の下で行われたために、村民たちにとっても不名誉な出来事となった。このようなもめ事は噂として、村の範囲を超えて、他の島や郷鎮、地域社会全体へと広がった。筆者が聞き取り調査をした限り、このもめ事の影響により、他の島の村幹部も、それ程危惧する必要のない村民と郷鎮政府との利益の調節場面において、自己の利益の最小化をすることで出来事を穏便に処理しようといったような、過去のトラウマに由来する危機感を抱くようになったという。

勿論、村幹部または村民が村落政治に参加する際、個々の有する親族、また社会関係などの人的資源は異なるため、選挙やもめ事、利益をめぐる出来事へのかかわり方も異なってくるだろう。しかし、村幹部と村民は、島外部と島の内部の社会関係の差異を明確に自覚しており、島外部の集団にいる人々に対して幾らかの不信感があり、島内部の社会関係に対しては、よほど度を越えた問題を起こさない限り、幾らかの寛大さがある。この背景には、島への戸籍の編入に厳しく、人口流動に対する長らく制限が続いてきたため、島内の人々の流

動性を最小限にとどめてきたことも関係している。陸地農村ほど村民の入れ替わることが日常的ではなかったために、ある意味島民の集団的アイデンティティが先鋭化しやすい状況にあったといえるだろう。

例えば、香港中文大学の政治学者のリー（LI, Lianjiang 李連江）が1999年から2000年に行った聞き取り調査から、中国の村民の国に対する信用は、中央から末端の村政府という著しく異なる階級の分類が存在し、江西省のある村民は、これらの異なる階級にいる政府は互いを庇護する²⁸⁾ことを言っていたという。

長山諸島の場合、陸地農村との大きな違いは、島民の多くは、村民委員会は郷鎮政府よりも親しく、郷鎮政府は中央政府よりも自己たちの利益を代弁してくれると思っている。興味深いことにリーが江西省で行ったインタビュー調査では、これと正反対な回答があった。リーがインタビュー調査した江西の村民は、「上級政府は政治的な行為が正当であり中国で言うところの「正」（正しい行い）、下級政府は政治行為が不当なものであり中国でいうところの「歪」（不正的）、そして中央政府は私たちが豊かにしたが、下級政府は私たちが貧しくした」²⁹⁾と発言していた。

またリーは、1,259名の村民を対象にして実施した政治アンケート調査結果において、「Very high」（非常に高い）という信頼評価の順位は、中央政府が53.4%、省レベルの地方政府42.4%、県政府25.7%、郷鎮政府16.1%、村政府12.7%という順に、中央政府が最も高い信頼の評価を得ていた³⁰⁾

長山諸島の場合、現在（2014年）家族の中で最も権威をもつ家の主である世帯主（＝60代）層は、かつて改革開放期の1980年頃は、ちょうど漁業に新規参入した、20代後半から30歳代の若者であった。彼らがここ30年間に経験した漁業は、漁業の個人経営化が進み、同時に漁業世帯では世帯員規模の縮小により専業化と個人経営への特化と漁業のワンマン化が進展し、漁業世帯に

28) LI, Lianjiang. 2004 "Political Trust in Rural China," *Modern China*, Vol. 30, No. 2 (April), pp. 231 を参照。

29) LI, Lianjiang. 2004, pp. 232 を参照。

30) LI, Lianjiang. 2004, pp. 232 を参照。

とって個人所得の最大化を目指してきた時代である。彼らにとって、漁業はかつての上の世代たちが経験した生産隊期の村共同協業ではなく、個人の仕事である性格が強まっており、生産共同・協業は、規模の大きい漁船漁業経営体に限定されている。従って、中央政治に無関心または距離を置く理由は、かつての画一経済や文革期など上の世代から聞かされた漁業政策をめぐる生産の失敗、経済の自由化により各自が利益の最大化を目指す個人経営によって富を獲得することができたという自信が背景にある。また陸地の出稼ぎ労働者が島に職を求めて押しかけてくることと漁の時期の制限、「海域使用金」の徴収に関する法的解釈の不備により、結局は地元の県政府との交渉に乗り出すことでしか問題が解決されないという諦念とそれを放置している中央政府への疑念がある。そして歴史的にも、島は常に中央政権とは地理的にも心情的にも距離があり、政治的権力を遠くから相対化し距離を置く姿勢などが代々受け継がれており、ある意味、心理的な政治的境界が存在し続けたと考えられる。

V. む す び

本稿は、中国北方に位置する長山諸島の一島嶼漁村の事例を対象に、人々の社会関係から見える村民委員会選挙の実態と村幹部が抱えるガバナンスのジレンマの内容を検討した。本稿の事例で明白なのは、現場の村組織を主導する村幹部が今日直面しているのは、自己の利益の最大化よりも、村民と地方政府の両者の狭間でどちらかを選ばないといけないという利益対立の構図のなかでガバナンスのジレンマを抱えていることである。

第Ⅱ章で示したように、村民委員会の選挙で「面子」という言葉に見られるように、社会関係の樹立に不可欠な「信頼」という人格を保障にした社会関係が見られる。しかしすべての村民が等しく「信頼」という人格を保障にして行動しているわけではない。村の政治空間において、村幹部のたゆまざる努力によって、村民との信頼を築きかつ「信頼」という人格を保障にした社会関係の網を村で張り巡らしているかが重要なのである。われわれは、Ⅲ章の利益の駆け引きで検討したように、村民委員会主任は、村の政治運営において、少なくとも自分の能力と業績を証拠として常に努力し続けていることが看取された。

また今日、長山諸島において村民委員会主任は、郷鎮政府と自己と村民、三者間の利益を調整する立場に立たされており、調整することのできるリーダーになるためには、公的立場に立って、自己の経済的利益の最大化を目指さないことが主要な調整要素となっている。IV章でみたように、郷鎮政府が課している「招商外資」、「海域使用金」などは、郷鎮政府と村幹部との富の分配の政治的な道具でもあるが、結果として島民から利益を奪う試みにつながるものであり、特に外部企業を招き入れることは利害と打算に応じて関係を結ばなければならない状況にある。

中国の農村において自治を更に発展させるために、政府が政策を上から下に押しつけていくことが不可欠であるという指摘³¹⁾がある一方で、村幹部が村民を束ねて協同協力をしていくことのほうが早道であることは言うまでもない。しかし、その道中では常に村幹部と上級政府である郷鎮または県政府との関係性が重要になってくることは、長山諸島の事例で明らかである。

また長山諸島の場合、村幹部は、島という境界を軽々越えないような政治空間において、自分と村民と郷鎮政府、三者間の利益の調整を行っている。そうした場において、外部観察者からすれば、形式的な自治というように捉えがちであるが、島民等は目に見えるかたちで一定程度村幹部を信頼し、安心して政治参加を行っている。村幹部と島民、または島民同士の社会関係は、各自の利益の最大化を追求しない、利益にのめり込まないで、互いに島内の社会関係を配慮できるという特徴がある。繰り返し述べるように、この背景には、島民は、島の共同体意識があるゆえに、島内部の対人的長所として寛容を重視する性格があり、政治参加もこのような考え方が反映されている。

村幹部を起点にしてみれば、自発的に利益の最大化を追求しない故に、幹部自身と郷鎮政府、村民の集団利益、バラバラな利益間の合意をもたらす結節点の役割を果たしている。陸地農村と比較して、長山諸島の場合、島民の相互信頼、各自の利益の最大化を追求しない、利益にのめり込まない村幹部の義務感

31) 徐勇・趙徳健 2014年「找回自治：对村民自治有效实现形式的探索」『華中師範大学学报（人文社会科学版）』第53卷第4期，7頁を参照。

が緊密に絡み合いながら、また歴史的にも、島は常に中央政権とは地理的にも心情的にも距離が存在していた。

そこには、島内政治と、外部環境との境界によって切り取られた、独自に形成された政治空間の存在が認められるのである。

参考文献

- 陳友華・杜俊飛等主編 2007 年『中国名村調査報告』上海：上海文芸出版社。
- Chen, Jie. Popular Support for Village Self-Government in China: Intensity and Sources, *Asian Survey*, (6), pp. 865-885, 2005.
- 広鹿郷志編纂委員会編 2010 年『広鹿郷志』哈爾濱：黒龍江人民出版社。
- 黄光国 2010 年『人情与面子：中国人的權力遊戯』北京：中国人民大学出版社。
- 胡先缙「中国人的面子」黄光国編 2010 年『人情与面子：中国人的權力遊戯』北京：中国人民大学出版社。
- 何包剛・朗友兴 2002 年『寻找民主与权威的平衡浙江省村民选举经验研究』武漢：華中師範大学出版社。
- LI, Lianjiang. Political Trust in Rural China, *Modern China*, Vol. 30 No. 2 (April), pp. 228-258, 2004.
- Loren Brandt and Matthew Turner, The Usefulness of Imperfect Elections: The Case of Village Elections in Rural China, *Economics and Politics*, 19 (3), pp. 453-480, 2007.
- Luhmann, N. 1973, *Vertrauen: Ein Mechanismus der Reduktion Sozialer Komplexität*, Ferdinand Enke Verlag. (大庭健, 正村俊之訳, 『信頼 社会的な複雑性の縮減メカニズム』東京：勁草書房 1990 年/2012 年)。
- 緒方宏海 2009 年「現代中国農村の宗族が「村民自治」に及ぼす影響分析(2)中国遼寧省の農村の事例を中心に」『政治経済史学』(512), 34-49 頁。
- 緒方宏海 2009 年「中国における「郷村観光」の実態に関する社会人類学的研究」『旅の文化研究所研究報告』(17), 1-14 頁。
- 緒方宏海 2013 年「中国黄海島嶼における漁業と家族生活：長山諸島の一島嶼村落の事例を中心に」『芝浦工業大学研究報告』(人文系編 VOL. 47 NO. 2), 21-28 頁。
- 饶静・叶敬忠 2007 年「我国郷鎮政權角色和行為的社會学研究綜述」『社会』第 27 卷, 178-188 頁。

- 孫昕・徐志剛・陶然・苏福兵 2007 年「政治信任，社会資本和村民选举参与－基于全国代表性样本調查の実証分析」『社会学』第 4 期 165-187 頁。
- 孫秀林 2008 年「村庄民主及其影响因素：一项基于 400 个村庄的实证分析」『社会学研究』06 期，80-107 頁。
- 唐晓騰編 2007 年『基層民主選挙与農村社会重構－转型期中国郷乡村治理的实证研究』北京：社会科学文献出版社。
- 張文明 2006 年『中国村民自治の实证研究』東京：御茶の水書房。
- 王泽农「一项不该收取的费用何来“减免”－大连渔民质疑养殖用海缴纳海域使用金」『中国水産』2007 年第一期 19-21 頁。
- 肖唐鐸 2010 年『宗族政治－村治權力网络的分析』北京：商务印书馆出版。
- 肖唐鐸 2002 年『宗族，乡村权力与选举－对江西省二十个村委会选举的观察研究』西安：西北大学出版社。
- 徐勇・趙德健 2014 年「找回自治：对村民自治有效实现形式的探索」『華中師範大学学报（人文社会科学版）』第 53 卷第 4 期，1-8 頁。
- 吉岡孝昭 2010 年「中国における農業稅改革と郷鎮級政府財政：農業稅敗廢止を中心に」『國際公共政策研究』15 (1)，71-87 頁。
- 湯鵬志 2012 年「利益集团，制度变遷与郷鎮政府改革」『社会科学家』第 7 期，総第 183 期，67-70 頁。
- 王泽农「一项不该收取的费用何来“减免”」『中国水産』2007 年第一期 19 頁。
- 張銘・王迅 2008 年『基层治理模式转型』北京：社会科学文献出版社。
- 張厚安・徐勇・項繼權等著 2000 年『中国農村治理－22 个村の調査と比較』武漢：華中師範大学出版社参照。
- 中国法制出版社編 1998 年『中華人民共和國村民委員会組織法』北京：中国法制出版社。
- インターネット：**
- 「2013 年社会服务发展统计公报」『民政部门户网站（民政部ウェブサイト）』2014 年 6 月 25 日。<http://yanchang.mca.gov.cn/article/gzdt/201406/20140600658537.shtml>。
- 「中华人民共和国主席令第三十七号」『中央政府门户网站（中央政府ウェブサイト）』2010 年 10 月 28 日。http://www.gov.cn/flfg/2010-10/28/content_1732986.htm。
- 謝辞：**本研究は平成 24 年度科学研究費（特別研究員 PD 奨励費文化人類学分野 22・655）とトヨタ財団による研究助成（D 12-R-0759）を受けたものである。関係者各位に深く感謝いたします。